

みちのり

重光孝昭さん

1939年鹿児島県奄美大島生まれ
兵庫県尼崎市在住。中国名・申樹林

命を救ってくれた養父母と優しかった叔母に感謝



重光孝昭さん、自宅で

当時、家族は奄美大島では仕事がないため神戸に出稼ぎに来ていた。1942年、重光さんが3歳の時「満州へ行ったら生活しやすい」と、親戚と共に神戸から奄美大島宇検村開拓団に加わり、中国吉林省敦化県に入植した。しかし、44年母の身体が弱ったため離農し、安東に移り、父は会社に勤めた。

5年2月、弟が病気で亡くなり、5月には父が徴兵された。(行方は分かっていない)その後、母は妹を出産したが、妹も母も亡くなった。一人ぼっちになった重光さんは叔母に連れられ敦化に戻った。

瀋陽で残留孤児に

そして8月、敗戦の混乱の中、重光さんは叔母と奉天まで逃げ收容所に入った。叔母(当時18歳)が收容所から住み込みで働きに出て留守だった時、煙草売りをしていた人のとりなしで、子供のいなかつた養父母が重光さんを引き取った。当時、養父母は文房具製造会社を持ち、文房具屋と本屋も営んでいた。

仕事から帰った叔母は重光さんをあちこち探した。そして文房具屋の前のゴミ箱の中に重光さんが難民所で着ていた着物を見つけた。「無事だ!」と思った。叔母はそれで引揚げる決心がついたとのことだった。

重光さんは養父母の母と養父母の四人で暮らした。情愛の深い家庭で、寂しくなかった。

重光さんは高校を卒業した後、アルミ製品製造会社に就職し、67年に同じ会社に勤めていた洋子さんと結婚した。文庫後、設計技師になった。

文化大革命は辛かった。重光さんが一番辛かったのは66年に始まった文化大革命時代。特に運動の最盛期の67年68年だった。職場で

は「平頂山万人坑」など日本人の「罪」の現場を見に行かされる思想教育が行われた。その教育を受けてから上司や仲間、重光さんを見る眼付や態度が前と違った。「戦争犯罪人の息子、日本のスパイがいる」と壁新聞に書かれ、思想改造学習班に入れられた。重光さんはどんなに尽くしても「信用できない人」としか見られなくなった。

72年、日中の国交が正常化した。養母は「文革のような辛い時代がまたいつ来るかわからない。子供の将来のために日本に帰ってほしいよ」と言ってくれた。そして、重光さんの身元確認の請願書を、日本に帰る残留孤児に託し、厚生省に届けられた。その頃、日本では叔母が難別した時の事柄を書いた調査願いを厚生省に出していた。

訪日調査第一号に

重光さんは82年訪日調査に参加し、2月に羽田で叔母と対面。肉親判明第一号になった。同じ年6月に、叔母夫婦が中国を訪ね、養父母に感謝の礼をした。尼崎市長が面会にその後、叔母夫婦が住む尼崎市の野平平十郎市長が姉妹都市鞍山市を訪問する際、瀋陽に立ち寄り、重光さん家族をヤマトホテルに招き、家族を労い、養父母に謝意を表してくれた。

私も役立ちたい

「今、子供のことは心配ない。命を救い育ててくれた養父母に感謝している。そして安定した生活ができる制度を作ってくれた支援者と日本政府に感謝している。これからは中国人と日本人がお互いに理解しあえるようになってほしい。私もそのために役立ちたいと思う」と重光さんは述べた。(聞き手 藤田順子)

中国の旅 シリーズ③

「日本人公墓」のある方正県



1965年、砲台山山麓に4500体の遺骨が埋葬され、「方正地区日本人公墓」が建立された(中国唯一の日本人公墓)

ハルビンから高速道G10を東へ約2時間、周りの田園風景はトウモロコシ畑から水田へ変わる。今や黒龍江省の米所としても有名になった方正県である。この地名、日本語読みであれば「ほうせい」となるはずだが「ほうまさ」と言う人が多い。旧満州に住んでいた日本人は方正県よりさらに東に位置する宝清県のことを「ほうせい」と呼び、区別したのだった。当地を知り訪れる人々にはこの呼称が今なお受け継がれている。



水田に囲まれた砲台山、この麓で遺骨を見つけた残留孤児たちは遺骨を集め、人民政府に墓の建立を願った



伊漢通郷、鹿児島県送出の開拓団が住んでいた村。別荘に避難、残っていた家は避難所になった

と女性、子供だけとになっていた。8月9日、突然ソ連が参戦し大挙して国境から侵入、そして敗戦となった。開拓民はハルビンへ向かって避難を開始したが、満州東部・東北部の開拓団の退路となる線路は間もなく不通となり、徒歩で西へ向かった。そして辿りついたのが方正であった。避難民が当てに

(宗景 正)

交流の広場

大盛況の新年交流会

「今年は戦後70年。ここに集まってもらえる中国残留孤児の悲惨な体験を繰り返さないよう、また、国家賠償訴訟の闘いをわすれることなく、時流に警戒を…」との宗景正コスモスの会代表の挨拶に一同しばし緊張。その後、来賓の挨拶や乾杯の音頭で新年交流会が始まった(2月7日・土曜日)。

約2時間、楽しい時を過ごした。今回は梅グループの担当。昨年末から打ち合わせを始め、新規の会場、調理室に見合った計画を立てた。食材購入や案内作りには他グループの皆様も助けをいただいた。開催日は朝9時から学習者・スタッフ総動員態勢。まかない方は、てんてこまいの忙しさ。大ぜいの人たちの胃袋を満たさんと、コックさんたちの手に力がこもっていた。

その間、3階の大ホールではテーブル、いすの配置が完了。この



朝、10時から始まった料理作り

一角でも、2階調理室と同様に水餃子作りが進んだ。風頃には2階から次々と料理が運ばれ、宴の開幕を待った。早朝よりお手伝い。ご協力いただいた皆さまありがとうございます。

(富本正幸)

参加者の感想

2月6日買物して7日新年会朝9時から作り始めました。重光さんとわたしか2人で大なべ二杯のサラダを作りました。

材料はきゅうり、にんじん、白菜、はむうすきり、干豆腐ともやし、ゆでる、調味料をまぜる味の素少々ゴマ油さとうと塩す味ぽん和風ごまたくさん作ったので疲れたけど楽しかったです。

(富合桂子) 私の新年交流会の感想です。2月7日おいしい物をたくさん食べました。水餃子や焼き鳥肉を食べました。お酒をいっぱい飲みました。それから中国の歌を歌いました。それから日本語の歌も歌いました。後は中国の秧歌を踊りました。私はとても楽しかったです。

(田牧武司)

研修会が行われました

ボランティア研修会兵庫

(近畿中国帰国者支援・交流センター主催)

2月4日兵庫県民会館で、県下8か所の日本語教室が集う研修会が開催されました。基調講演のあと、各教室から活動報告がなされ、「コスモスの会」から田中いずみさんが要領よく簡潔報告されました。有意義な研修会でしたが、ティスカッション時間があまりとれなかったことが少し残念でした。

コスモスの会

3月10日コスモスの会ボランティア研修会を開催。今回は、コスモスの会代表の宗景さんが講師となつて、「中国残留日本人が生じた歴史と帰国に関する問題」についてパワーポイントを使い分かり易くお話をいただきました。

次回の研修会

「私の体験と中国残留日本人孤児への支援」14歳で満蒙開拓青少年義勇軍に参加した体験から、講師：伊丹中国帰国者と交流する市民の会 会長 星 宏氏 日時：5月19日午後3時15分〜5時まで 会場：尼崎市中央公民館視聴覚室

2015年総会のお知らせ

2015年6月9日 午後3時15分から5時まで 会場：尼崎市中央公民館視聴覚室 会員の方、ぜひご出席下さい。



毎年進化する元信一さんのコマ回し



2世、3世も大勢参加し、歌いました

主な行事

- 1月25日 生け花
- 2月7日 新年交流会
- 2月22日 太極拳
- 3月31日 日本語教室発表会
- 4月12日 フライパンで作るピザ教室

